

泉南市・立道智昭さん・智恵さん

きつかけは、同市農業委員を務める智恵さんが農委事務局から制度の説明を受けたことだ。保険料の全額が社会保険料控除

智昭さんは智恵さんから制度のメリットや特徴を聴き、「家族の言葉なら信頼できる。国の政策に基づく公的な年金であることも安心」と加入に至った。

智昭さんと智恵さんは「姉妹で末永く農業を続けるための備えになる」と話す。

が展開する「若い農業者及び女性農業者等への周知徹底、加入累計15万人早期達成強化運動」を受け、大阪府農業委員会組織では「農業者年金加入推進特別対策に関する申し合わせ決議」を行い、JA・JA大阪中央会と連携して令和5～7年度の3年間で新規加入者50人の確保に取り組んでいる。

若者への加入推進が重要視さ

府が連続講座を開催

経験に基づく商品開発・販路確保のポイントなどを紹介した。

農業の成長産業化を目指す「農業関連ビジネススタートアップミーティング」の第1回と第2回を開催。第1回は農業者14人・企業15社、第2回は農業者5人・企業5社がそれぞれ参加した。

講演会後は農業者と企業が商品を持ち寄り、各々が提供可能なリソースや農業分野で新しく取り組みたいことについて意見交換を行う交流会が開かれた。

第2回では、大阪農業への理解を深めるためのほ場見学と、

第1回では、有限会社セメントプロデュースデザインの金谷勉代表取締役社長が「異業種と

ビジネスアイデア創出を目的としたグループディスカッションを実施した。

の創出」を演題に講演。異業種交流による成功事例や、自身の

ほ場見学では、羽曳野市の農地約110^アでイチジクなどを生産する藤井農園を訪問。園主

れているのは、支払保険料が同額であっても長期にわたる積立・運用によって、将来的な年金受給額と節税額に差が生じるため。39歳までに加入した一定の要件を満たす農業者は保険料の国庫補助を受けられるなど、早期加入がメリットにつながる。

また女性農業者への加入推進が重要視されているのは、平均余命が男性よりも約5年長いという統計的事実があるため。長寿化が進む中で、老後の生活資金の備えは重要性を増しており、農業者年金は有効な選択肢の一

つとなる。

そのほか、自営業との兼業農家への加入推進も重要。「60歳未満（国民年金の任意加入被保険者は65歳未満）」「国民年金第1号被保険者」「年間60日以上農業に従事」の3要件を満たせば加入可能のため、幅広い視点での加入推進が新規加入に結びつく。

府内の加入者数は5年度に9人、6年度に13人、7年度（8月末時点）では1人とどまつており、さらなる加入推進活動の強化が求められている。（林佑）

の藤井貫司さんがイチジク栽培の魅力と課題を説明した。

グループディスカッションでは3班に分かれて話し合いを行い、ビジネスプランを発案。

農業者として参加した大阪市で「体験農園あじわい」を営む上田智史さんは「異業種の方との交流は刺激的だった。企業と連携すれば、子ども向け体験イベントにも新しい要素を加えられそうだ」と手応えを語った。

本ミーティングは全5回開催予定で、最終回後には策定したプランを大阪府主催の「おおさかアグリイノベーションングランプリ」へ応募し、実現資金の獲得を目指す。

(林佑)



智昭さん(右)と智恵さん(左)



第2回のグループディスカッションの様子